

学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式（小学校用）

都道府県名	群馬県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	安中市立磯部小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	2	2	2	2	2	2	13	19
児童数	36	53	57	59	51	46	3	305	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を目指して ー算数科におけるきめ細かな指導の工夫ー

2. 研究の内容と方法

(1) 実施学年・教科

1・2年生：T・T
 3～6年生：算数
 児童の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 確かな学力を目指して ー算数科におけるきめ細かな指導の工夫ー</p> <p>研究の見通し 少人数指導や理解習熟の程度に応じた指導を実施しながら、評価と教材開発の視点から児童一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導を工夫していくならば、児童に確かな学力が身に付いていくであろう。</p> <p>研究の内容・方法 ・教材開発（発展的な学習・補足的な学習） 補充・発展問題の開発、教材教具等の具体的な指導の手立ての工夫。 ・指導方法・指導体制の工夫改善 単元計画の実践的な研究（どの単元の、どの学習過程で、どんな学習活動を組み、どのような指導体制が効果的か。） ・評価を生かした指導の改善 補助簿等評価方法の開発、評価規準の活用と評価の充実に関する研究。 ・学習習慣の定着</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 確かな学力を目指して ー算数科におけるきめ細かな指導の工夫ー</p> <p>研究の見通し 少人数指導や理解習熟の程度に応じた指導を工夫改善しながら、コースごとの教材開発と指導と評価の一体化を推進し、児童一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導を工夫していくならば、児童に確かな学力が身に付いていくであろう。</p> <p>研究の内容・方法 ・児童の実態に合わせたコース別の教材教具の開発。発展的な学習・補足的な学習の開発。朝学習の充実による計算技能の定着。 ・指導方法・指導体制の工夫改善。 ・努力を要する児童への支援に生きる評価の工夫。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制

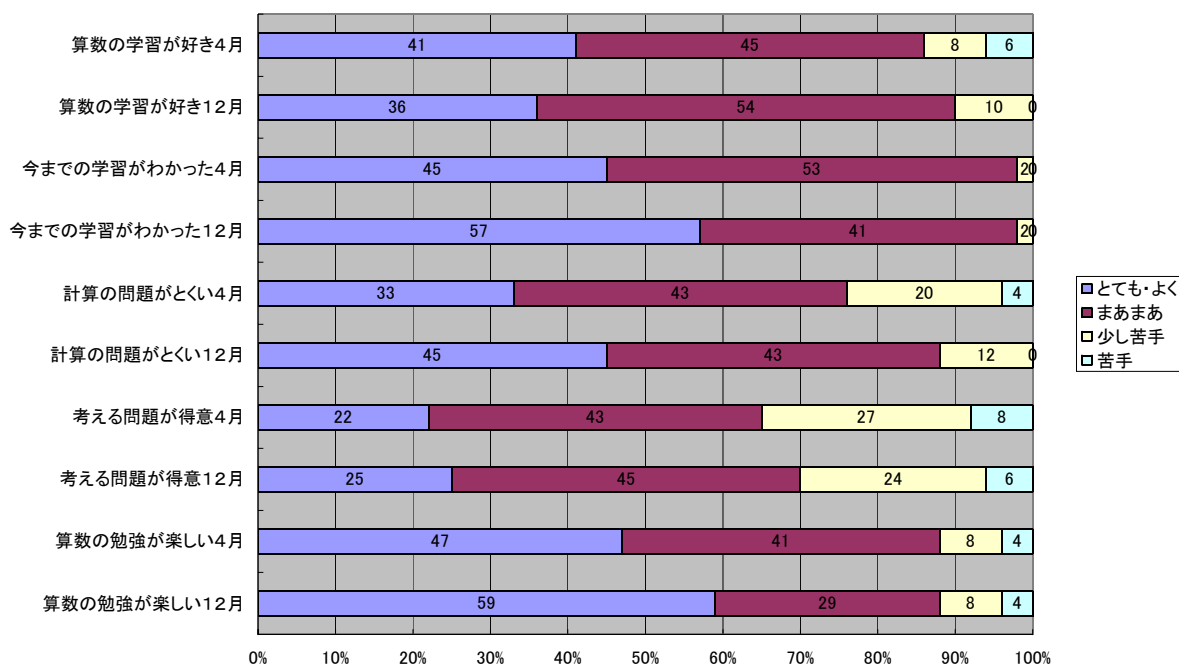
校長－教頭－推進委員会－全体会－班部会	
学年ブロック部会	
班編成	
教材開発班	・・・補充・発展問題の開発、教材教具等指導の具体的な手立てに関わる基礎研究。朝学習の時間の在り方と内容の検討等。
評価班	・・・補助簿等評価方法の開発、評価規準の活用。評価を子どもたちの学習と教師の指導の改善に生かす。
資料・学習習慣班	・・・アンケート・学力検査の考察。学習習慣の定着を図る方法、資料の収集保管等。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

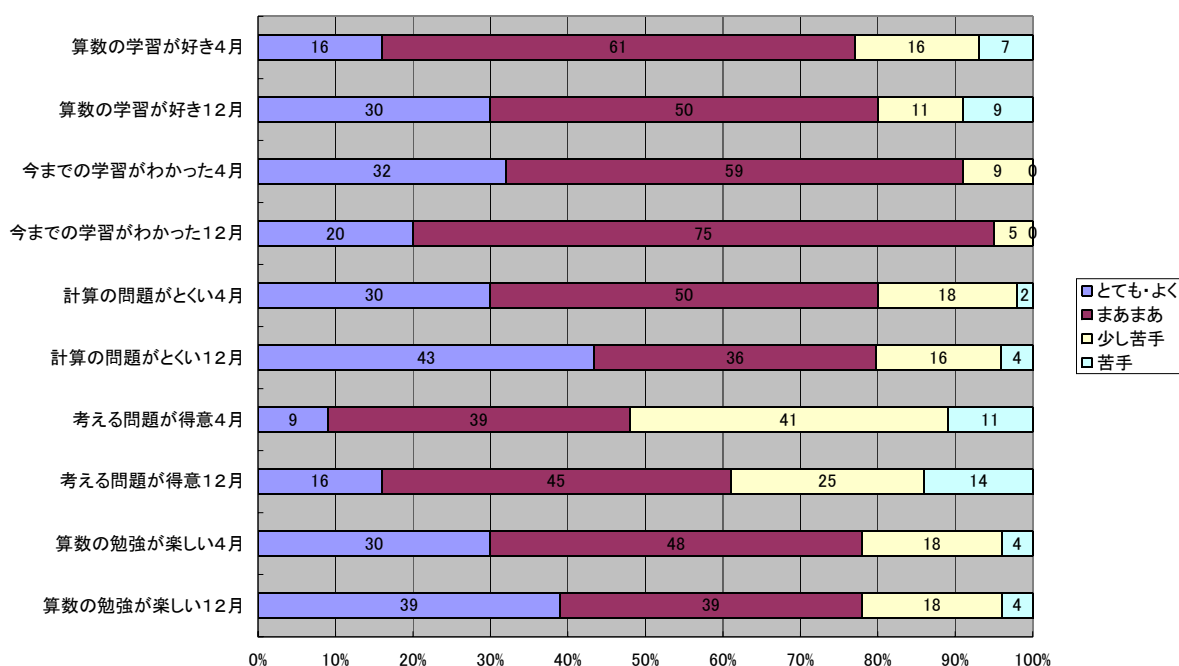
1. 研究成果

高学年では、習熟の程度に応じたコース別学習が児童の間に定着してきた。児童の受けとめ方も大方好評であり、コースの自己選択も適切になってきた。中学年では、習熟の程度に応じたコース別学習が児童に受け入れられつつある。算数の学習に対する児童の取組が前向きになった。年間の単元計画一覧表に習熟の程度に応じたコース別学習の時間を位置づけられた。A B 規準を入れた毎時間の座席表、振り返りカード 補助簿の作成とその活用を図ってきたことで(重点単元) 評価を生かした指導に取り組めた。各学年で学習形態、教材教具、評価項目を入れた単元計画表を作成できた。(重点単元) 学習習慣の確立を目指して、「学習のやくそく」を作成できた。家庭への「フロンティアだより」等の発行で、学校の取組や児童の活動の様子を伝えることにより保護者の理解が得られた。

5年算数意識調査



6年算数意識調査



2. 今後の課題

研究内容・方法の焦点化とその共通理解を十分に図る。

- ・コースごとの指導方針。目指す児童像。学習支援員の活用。座席表や補助簿の有効活用等。

各コースごとの個に応じたきめ細かな指導の方針と具体策を明確にし実践を図る
各学年、各コースごとの教材・教具の開発、及び発展的な学習・補足的な学習の開発を進める。

朝学習の内容と方法の工夫を図ることで既習内容の確認や定着を図る。
座席表や補助簿の活用による評価と指導の一体化を多くの単元で実践する。
授業時間内で補充が十分でなかった児童への補習の時間について検討する。
「学習のやくそく」の徹底を図り、学習習慣の定着を目指す。

学力等把握のための学校としての取組

学力検査N R T
児童の学力全体の把握、領域別の実態把握。学力の変容をみるための1回目の調査。
3～5年で15年5月に実施。

学力検査C R T
1年間の研究の成果をみる1つの方法として、児童の学力の到達度を検査する。
1～6年で16年2月に実施。

学力検査N R T
児童の学力の変容を1年前のものと比較し、1年間の研究の成果と課題を明らかにする。
16年5月に2～6年で実施。

フロンティアスクールとしての研究の成果の普及

公開授業：平成15年11月20日実施。於；自校。対象；西部教育事務所管内小・中学校。実践研究の取組を普及する目的。
平成15年度研究紀要を作成し、域内の小・中学校に配布。
HP作成：今後充実を図る予定。

チェック事項

【新規校・継続校】 15年度からの新規校

【学校規模】 13～18学級

【指導体制】 少人数指導

【研究教科】 算数

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無